

令和 7年 2月 21日

世田谷区立用賀小学校
校長 安藤 由季子 様

世田谷区立用賀小学校
学校関係者評価委員長 荒井 達也

令和6年度学校関係者評価について 令和6年度の学校関係者評価を評価委員が協議の上とりまとめましたので、その結果を下記のとおり報告いたします。

1 評価にあたって

学校関係者評価委員会では、より良い教育活動が展開されるよう「保護者・地域のアンケート調査」、「児童のアンケート調査」(5、6年児童)(共通項目・独自項目)をもとに、本年度の教育活動全般を評価し次年度の改善に向けた報告書をまとめました。

【回答の割合及び人数(今年度もWEB対応のみ)】

① 保護者

	回答人数	実質人数	(在籍人数)
1年	67% 80	120	(121)
2年	55% 50	91	(93)
3年	50% 57	114	(114)
4年	46% 47	103	(103)
5年	63% 74	117	(118)
6年	61% 73	119	(120)
全体	57% 38	664	(669)

② 地域 11名

2 学校経営方針の重点目標「課題を解決する力の育成」「自己肯定感・協働する力の育成」「非認知能力・創造する力の育成」を達成するための基本方針ごとの評価

「課題を解決する力の育成」

- ・問題意識を持ち、自ら調べたり考えたり時には友達と一緒に頑張って解決することを身に着けることは今後の成長に大変役立ちます。

「自己肯定感・協働する力の育成」

- ・自己肯定感「ありのままの自分を肯定する感覚」や協働「立場が異なるものが、ひとつの目的に向かって、それぞれの特性を生かして、役割分担しながら取り組むこと」は児童全員が納得して取り組めるようご指導をお願いします。
- ・自己肯定感は往々にして自己主張とつながり、それをセーブできる周囲の指導者と協働できる仲間の育成が重要だと思います。

「非認知能力・創造する力の育成」

- ・非認知能力「知能検査や学力検査では測定できない能力」具体的には、やる気、忍耐力、協調性、自制心など、人の心や社会性に関する力を育成することによって内面的なスキルを向上させ児童の人生

に影響力がありますので良いテーマだと思います。

- ・保護者アンケートでは、「今年度の学校重点目標を理解している。」(52.4%)、「あまり思わない」「思わない」(28.4%)と次年度に向けての課題となります。なお、先生方が取り組んできた内容は児童からの評価が高いようです。
- ・児童の考える力を育てている先生とのコミュニケーションが取れています。
- ・教育DXの推進、工夫が見られます。

(1)「キャリア・未来デザイン教育」の推進

キャリア教育「一人一人が社会の中で自立し、自分のキャリアを築いていくために必要な能力や態度を育てる教育のこと」に対して、保護者アンケートでは、「丁寧に指導している。」(81.1%)、「子どもが考えたことを話し合ったり、発表し合ったりする機会がある。」(79.0%)、児童アンケートでは、「ていねいに指導してくれる。」(93.7%)、「授業では、考えたことを話し合ったり発表し合ったりする機会がある。」(84.6%)

- ・先生方の指導や伝え方がとても高く評価されています。
- ・総じて保護者よりも児童からの評価が高いです。
- ・学年が上がる毎に自分の将来につなげるように関心も高まっています。
- ・肯定的回答内容から考え、まとめ、発表する力が付いています。
- ・保護者は、学校が子どもに目標や将来のことなどの授業の内容についての評価が低いです。

《次年度に向けて》

- ・こうしたことがすぐに成果につながるわけではないが、継続し定着させることが肝要と思います。
- ・先生方が機会を与えることで、経験を積み重ねた効果が得られたので今後も進めてほしいです。
- ・自己肯定感を高めたことによる、次なる効果を目指していただきたいです。
- ・毎年出ているが中学校情報の低いのが気になります。
- ・学校が保護者に向けて、学校での子どもたちの授業や活動を今以上に知らせたら良いと思います。
- ・できるだけ多くの職業・技術を見聞きして選択できるようにしてほしいです。

(2)「探究的な学び」の充実

探究的な学び「児童が自ら問いを立て、情報収集や意見交流などを通じて解決に向かう学習活動」に対して、保護者アンケートでは、学び合いや学びを振り返る活動を通して自分のよさを見付け自分に自信をもつ取組は、効果があると思う。(70.4%)、児童アンケートでは、問題を解決するために、必要な情報を集めたり、整理したりして自分の考えをまとめている。(72.1%)

- ・相手の立場を思いやる気持ちの高さが感じられます。
- ・次に生かす力が不足しています。
- ・自分のよさ、特技などは自分では気付いていない児童が多いのでたくさんの友達と付き合い、たくさんの友達から、特に先生からほめられ自信をもたせる事が大切だと思います。
- ・異学年交流が活発に行われていることがアンケートより理解できます。
- ・アンケート内容によっては、分からないが目立つ項目が多くあることが気になります。

〈次年度に向けて〉

- ・一歩踏み込んだ創造性の育成を期待したいです。

(3) 教育の DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進

教育の DX「データやデジタル技術を活用して教育や学校を変革すること」に対して、保護者アンケートでは、「映像やタブレットを工夫して、分かりやすい授業をしている。」(72.4%)、児童アンケートでは、「映像やタブレットを工夫し、分かりやすい授業をしている。」(93.3%)、「家庭で宿題や e-ラーニングでの学習をしている。」(66.6%)という結果であった。

- ・先生方の創意工夫の積み重ねにより、D X 授業の質の向上が感じられます。
- ・先生方のデジタルスキルがアップした事が、高評価に繋がっています。
- ・タブレットは低学年の中には難しいかもしれないが高学年になるにつれ伸びているのは頼もしいです。
- ・タブレット端末を取り入れての授業から先生方の工夫が見られます。

＜次年度に向けて＞

- ・児童の評価より保護者の評価が低いので、保護者へ伝える工夫が必要と思います。
- ・低学年でタブレットの操作につまずかないよう、より一層の工夫をお願いします。

(4) 多様性を尊重しながら共に学び、共に育つ教育の推進

多様性「さまざまな社会、民族的背景、異なる性別、性的指向など、それぞれの人々が持つ多種多様なバックグラウンドのこと」に対して、保護者アンケートでは、本校の学校生活は、子どもにとって楽しい。」(89.3%)、児童アンケートでは、「友達の気持ちを大切にし、話を聞いている。」(96.0%)

- ・自分よりも相手に対する姿勢などに「とても思う」の回答が多いことから、多様性を尊重しながら学んでいる感じが感じられます。
- ・“学校生活は楽しい”“学校が好き”が約 80%を示しています。
- ・用賀小では学校行事や地域行事が多く、先生方が真剣に取り組んでくれている賜物と思われます。
- ・考え、話を聞く、先生方に相談できる学校が出来ています。

＜次年度に向けて＞

- ・「自分を尊重し大切にすることは良いこと」に導けるような工夫も模索していただきたいです。
- ・現在でも授業時間に余裕がないようですが、これらの行事は児童の成長には最も大切なもの、そして思い出作りに必要なものなので先生方のご苦労はとてよく分かりますがぜひ続けて欲しいと思います。

(5) 健やかな体づくり

健やかな体づくり「体育朝会や異学年の運動交流を実施することにより、運動に親しむとともに、自ら進んで運動に取り組む姿勢を育てる」「栄養士や養護教諭を中心とした食育や保健教育を充実させ、児童の健康に関する意識を高める」に対して、保護者アンケートでは、「本校が、体育朝会や運動遊びの交流(異学年交流)、外遊びに取り組んでいることは健やかな体づくりに効果があると思う。」(92.1%)、「子どもは、体力の向上や健康な生活に取り組んでいる。」(79.1%)、児童アンケートでは、「すすんで体を動かしている。」(75.6%)という結果であった。

- ・本校の体を動かす教育に対してとても高い評価を得ています。
- ・体育朝会などを通して児童の体力向上への取り組みが見られます。

＜次年度に向けて＞

- ・体力テストの数値が低い項目もあるが、あまり他と比べることなく、継続は力なりの姿勢が望ましいと思い

ます。

- ・体育朝会や外遊びの推進、特に異学年交流の運動遊びは健やかな体づくりと人格形成に効果が大きいのでぜひ続けてください。

(6) 学校・保護者・地域との共有

地域運営学校として、学校、家庭、地域の皆様とビジョン(ゴールイメージ)を共有し、それぞれがそれぞれの立場で責任をもって子どもたちの健全育成に取り組んでいくに対して、保護者アンケートでは、「本校は、様々な頼りなどで、保護者に情報を提供している。」(87.8%)、地域アンケートでは、「学校からのお知らせ(学校だより)などにより、学校の様子分かる。」(100%)

- ・保護者への情報共有は総じて高い評価を得ています。
- ・保護者アンケートから課題解決を大切にした授業で子どもたちが中心となり考え話し合い発表し合う機会が行われている事とても頼もしく見守っています。
- ・学校だより、ホームページなどからの情報で学校の動きがよくわかる内容になっています。

<次年度に向けて>

- ・「学び舎」の情報評価がやや低く、引き続きの対策が必要です。
- ・保護者が、ホームページなどで行事や子どもたちの活動が見られれば、評価が上がると思います。
- ・地域の方が、おはようコミュニケーションや学校に関われたらよいと思います。

3 まとめ

学校経営方針の重点目標や基本方針をもとに1年間活動した評価が自己評価及び保護者・児童アンケート調査結果です。

- ・保護者アンケート調査の回収率(57%)が低いので保護者の皆さんにご評価いただける様、検討をお願いします。また、学校だよりで用賀小学校の重点項目への取り組みについて周知されているが保護者の「重点項目を理解しているか」の評価が低いのでどうしたら理解していただけるかを考えていただきたいです。
- ・毎月キーワードの内容が掲載されているので分かりやすいと思います。
- ・意見を出し、取り組み、評価し解決点を見つけることが学校内で行われていることが分かります。
- ・先生方の様々な創意工夫により全体的には高い結果が出ているが、項目ごとのバランスはまちまちである。しかしながらまだまだ発展途上であるので、このまま丁寧に推し進めていただきたく存じます。
- ・私は、今まで近所のお節介おばさんの様に児童・学校を見て、気付いたことを言ってきました。今改めて、学校アンケートの結果及び自己点検の結果(保護者・児童・先生のそれぞれの立場での感想・意見等)を読ませていただくと、例えば保護者と児童は、ねばり強く取り組んでいると回答している項目に対して、学校・先生は「もう少し改善の余地がある」と評価が分かれています。そして、その他につきましても保護者への情報提供の仕方に課題があると考えられています。情報をいろいろな方法で提供されていますが、普段保護者の方たちからお話を聞く機会が少ないのではないのでしょうか。多様化の時代で、保護者個々の望むものと学校として最低限やりたいことのすり合わせがもっと必要ではないのでしょうか。かなり昔の親や児童たちは、先生の言うことは絶対でした。今は、共働きの家庭が多く忙しいと思いますが、学校任せではなく今一度学校と家庭での共通認識を持つことが必要ではないのでしょうか。

学校関係者評価委員も、もっと学校へ足を運び、授業内容、先生との会話を積極的にさせていただけたらよいなと思いました。

・思いやりのあるやさしい子ども

昨夏の酷暑の中、道端でゴミ収集ネットの片付けをしていると用賀小のA子ちゃんが汗びっしょりになって学校から帰ってきて“私手伝いますから待っていて”とランドセルを家に置き、すぐに戻ってきてネットと一緒に畳んでくれました。A子さんのやさしい思いやりの気持ちがとてもうれしかったです。

最後に、地域に根差し愛される用賀小であり続ける事を祈っています。

<学校関係者評価委員名簿>（五十音順）

荒井達也、江藤真理子、鈴木いまを、矢萩正弘、和田義則